夕刊
磐城新聞
八月八日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料 一行（普通欄）金六拾錢 （特別欄）金九拾錢 五號十二字詰一行 （縣所指定）一行一回
編輯印刷兼發行人 福島縣石城郡平町 十六番地
發行所 磐城新聞社
登錄交名電略（イワキ） 平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

前田醫院
院長 前田清美
植田町電話一二四

本社主催太田水穗氏御夫妻歡迎短歌會詠草

二、窓

9 ○せめて此の深呼吸に足れ一日の運動不足を窓際に立つ　秋間 小路
7 ○窓ぎはの梧桐の葉に降る雨の音を立てつゝ晝靜かなり　野本多霞夫
6 ○不圖立ちて鎧戸開くる窓の外に暮色こめたる山の迫れる　吉岡 獨歩
5 ○煉獄の火にわが命なげきつゝこの世に見たり常ならぬ窓　佐久間綾子
8 ○一點の百合を咲かせて此の窓の眞夏の山は滿ち溢れたり　吉田 傑
3 ○雨晴れの窓いつぱいに吹き入りて吾に寢冷えをさする濱風　田中 賢介
3 ○ゆるやかに山裾を走れる夜行車の窓からはいる山百合の香り　那珂川 浩
1 ○夕月夜窓をのぞく草の鞘に今宵かそけくも風渡る見ゆ　植田 靄春
10 ○おしかぶる夏の暑さの耐ゆがたき窓に色濃きあじさいの花　青山 貞三
2 ○明け放つ二階の窓は涼しもよ大海原を風渡る見ゆ　矢吹 長貴
4 ○窓堅く暑中休暇に鎖したる分教場は人見えずけり　草野 牧笛
4 ○看護婦のテニス試合を窓に見てたまゆに病を忘れし吾か　美崎 一郎
2 ○夕月のひかりさしくる高窓のカーテン窓に吹きながれたり　渡邊 何鳴
13 ○檜扇の花を明るく咲かせたる此の田舎家の窓はしたしも　小山田 滋
10 ○くちなしの白くにほへる宵闇を窓さしかねてためらへるなり　結城みち子
4 ○冷水を浴びていきほふわがからだ夏朝燒の窓を押し開く　四家 光子
14 ○醐越にて道は一筋みちのくの汐じむ屋根を窓に見てゆく　四家 光子
13 ○窓によりて本讀む人の横顔のやつれを見する紫陽花の花　田部 君子
3 ○夕ふかくおもひひそめてある窓邊しろ／＼とさびしもちの木の花　池上 富司

潮聲硯靜抄帳

雜詠當季　天野雨山選

おもむろに朝靄晴れて行々子　松堂
鯉幟門は若葉の明るさに
古葛籠はたけば紙魚の這ひにけり
爽竹桃に映ゆる朝日や更衣
掘り返すつゝじの株の羽蟻かな　石城
門待の黄昏時や雪の峰
老松の枝おもしろき風薫る　（勿來關）
薫風や松と櫻の影ふかく
牡丹のくつれてありぬ庭夕べ　晩霞
色つきし木苺に蚯の唸りかな
子の歸省語り合ひけり納涼台
さんと照る陽に白し田植笠　武門
田植人に聲かけてゆく敎師なり
葦切や水滿たる用水池

月夜（童謠詩）

山口 正夫

鼠色した
夜の空に
牡丹のやうな
月がでた。
西瓜の畠
萩すゝき
蕎麥の畠は
晝のやう
夜遊び歸りの
子供らか
盆提灯など
つけてゆく
夜風のかする
肌寒むさ
野中一軒家の
蟋蟀。

社會の今日

8月9日　△傳敎大師歸朝（一二〇九）△散髪廢刀令發布（明治四）△列車食堂値下げ（昭和五）△沖繩縣下宮古島暴風一萬四百餘戸倒壞（同六）△第十三回聯盟總會わが代表決定△猛颱風、沖繩縣大東島を襲ひ家屋倒壞多し△全日本都市對抗野球大會終る、神戸軍優勝△汪兆銘に殉じて政院要人總辭職△北滿大洪水のためハルビンも半水浸となる（同七）

○

通る人に茶店の世辭や蟬涼し　九品太

紀の山やいく峰々の末晴れて、細き光りを曳ける朝雲　太田 水穗

悩める者の手記　四

（此の一編を亡きMの墓前に送る）

前田 勝江

お前と會つた時の悲慘な事もほゞ想像がつい居たけれど、併し來る事を知つては歸り兼ねた自分だつた、家へ歸つてから母に叱られると云ふ事も全部意識しながらも氣强くお前を待つた、五時の汽車が來たと思はれる頃、私の胸は高鳴つた。併し自分は去らなかつた。C子が敎へてくれお前が來た事を……お前は友達と話しとゐて決してこつちへ來やうとはしなかつた。自分も亦C子と話しでゐて決して去らなかつたお前の心も充分察しては居たけれど……併し輕便が出る頃お前は來た、けれども自分には一ぺつも與へず横むきになつて通りすぎた、その時の私の心持が知つてくれ樣か、今にも引き出したい樣な張り裂けそうな胸をじつと怺えてたゞ淋しい笑ひに紛らしてC子に對して左樣ならをしたのだつた。家に歸つてためてゐた涙が一時に溢れ落ちた、本當にお前はあの樣に一時に冷淡にすれた人間だつたのだろうか、いゝえ自分にはそう思へない、決してそうは思へないのだ。お前が男としての片意地なのだろうそう思ふ時なほさらお前が可哀そうだ

たお前からT子によこした手紙を見たさに、私はある私をわざと投捨てゝない樣に見せ水ぐみに出かけた、春雨のそぼ降る雜木山に腰を下して二度と見る事の出來ないお前の手で書かれた手紙を讀んだ、無性に涙が出で讀めなかつた。あゝやつぱり駄目なんだ。お前は私をおこつて居る。そして誤解でないと云つてゐる。T子は自分がよけいな事をした爲にあなたをよけい惡口させる樣にしたと云つてあやまつた。私は雨の降てゐる事も忘れていつまでも〳〵泣きふして居た。あゝ私はどうしてもお前が可愛いゝ、併し私はお前のために、頑固なお前の心をさまたげない爲に怎麽に愛して居ても二度と此の愛に歸つてくれと云ふ事は出來ない。たゞ自分はお前に對して上京したら一心に勉强してくれ、そして成功してくれと云ひつゝお前の健康と幸福を祈らねばならないのだ。お前の愛が再びよみがへらない事は私にとつてはこの上もない苦痛ではあるけれど愛するお前の身の幸福なるためには自分の心を犧牲にしなければならない。そして又お前も二度と再び私の胸にもどろうとはしないだろうけれど……

講談　劍火無情（87）

津屋義人作　菅野祐作畫

嵐の前（五）　脱出の後（一）

水戸城を出て、那珂の港に大敗北を取つた市川三左衛門と、筑波山を攻めて、常に不利の立場にある朝比奈彌太郎の二手は、窮餘の一策を考へ附いた

『筑波山の田丸稻之右衛門藤田小四郎は他藩の浪士を集めて、其勢ひ益々盛んとなり、磐船山に籠もる武田耕雲齋は、水戸家支藩たる常國宍戸の城主、松平大炊頭を語らつて、今にも水戸城を奪ひに來るであらう。此上は江戸表へ密使を立て將軍家乃至老中を動かすより外はあるまい』

斯う言ふ打合せの出來た市川と朝比奈は、田丸や武田をざん訴した

『水戸中納言江戸に在るを幸に、水戸城内より家老田丸稻之右衛門は同志を語らひ水戸家横領の旗揚をなし野州大平山から栃木の町で放火りやく奪を行ひ、其勢ひを以てつく波山を占領致し、一方江戸に狂つた武田伊賀守と氣脈を通じ、此へ手は那珂の湊を奪ひ、當時磐船山に據つて、田丸武田兩軒を合し、水戸城を衝かうと致し居ります。其間に在つて支藩松平大炊頭は、同じく此叛逆の後見を致して居ります。主人水戸中納言之を鎭撫する事能はず、何卒公儀御威光を以て、奸徒御征伐の程願ひ奉る。田丸武田等は常に勤王を口にし、倒幕の叫びに諸藩の脱士を集め、樣々の惡策を弄して居ります』

斯うした意味で、佐幕派の老中へ建言書を出した

この爲につ筑波磐船兩山を討伐するといふ議が幕府に起つた。斯る時にはいつでも秋岡丹三郎や、田岡大助が暗中飛躍して、是までは阻止したのであつたが、惜しいかな此時には兩士とも、自ら身を退いて了つてゐたのである。

『[illegible]如として近國各藩へ討伐の命が下つた、信州高島の諏訪因幡守、常陸石岡の松平丹波守、上州高崎の大河内右京亮（松平姓）越前敦賀の酒井飛彈守、其他田沼玄蕃頭、附近に居合す小田原、桑名、彦根、會津大、垣、加賀の兵へも討伐令が傳へられた

それは德川將軍に次ぐ勢力の一橋中納言が、江戸市ケ谷加賀町一丁目の邸から發令したものであつた

勤王黨として正義の士として、衆皆敬服しつゝあつた田丸稻之右衛門にも悲しむべき時運は到來した。筑波山の策士として、水戸に江戸に策動しつゝあつた秋岡、田岡の兩士は今やなし諸藩の兵は筑波山に迫つて來る

稻之右衛門の前へ出た娘の松子は、言ひ知れぬ憂愁の面持して、

『お父上、私の良人は最早筑波へは歸りませぬ。山中の水藩士は至つて狹量で人を容るゝの明がなく唯々他藩士を疎んじまするゆゑ、何事も申さず立去りました丹三郎のみか田岡大助殿も立去りました。常に筑波を離れて、樣々の働きを致す兩人が居りません上は、到底此山を守る事はなりますまい。お父上のお考へを承はりたく存じまする』

稻之右衛門も旣に覺つてゐた

『ア、天なり命なり。旭日昇天の勢ひを以て今日まで我軍の全勝を占めたのは、全く秋岡田岡兩士の策動にあつたのぢや、此稻之右衛門が兩士を引止むる力なく、又部下狹量の士を制する力なく、斯樣な仕儀に立至つたのぢや。此上は力の及ぶ限り、敵を防ぐに努むるであらう。自分の考へとしては唯一つある。松子もそつと近く寄れ、其一策を密に申聞けやう』

『ハイ、してお考へは』

父子座を縮めて、最後の策を講ずるのであつた

『是より彼の井戸拔け穴に依て、其方は兩士の跡を追ひ、當山を去つた秋岡丹三郎を探し求めよ、其方の爲に依て、今一應吾等の爲に秋岡田岡兩士の力を借りたい、何卒速に當山を去つて吳れよ』

『父上、私は以前に良人と別れても、父に附けよと申した丹三郎に對して、其跡を追ひ行く事は、甚だ恥しう存じまする』

『オ、其儀は無理からぬ事であるが、父の爲否勤王のお爲と思ひ、何うか當山を去つて吳りやれ』

父稻之右衛門の眞意は、秋岡に再び應援を乞ふのでなく、自分は戰死と覺悟して、娘を其良人の許へ送る目的である

拈華微笑

サア入場券が配られた。お互そろそろフヨミキを決めませう

◇

應援辯士の最高峰犬養健代議士の壇上颯爽たる處が早く見度い

◇

ウルトラモダン語。殺馬的暑熱

◇

交通安全デーの自動車事故。氷の天ぷら見たよなはなし

◇

けふ立秋。蟬噪く頻り

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

御愛乘下さい
シボレーに！
そは先驅者なり

夜間診療
胃腸性病 專門
內科
花柳病科
皮膚病科
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

愈々新盆も近づきました。
御新佛の戒名入提灯。を御注文下さい。

提灯

	寸法	價格
角形	經六、〇デシメートル	一對房付十五圓也
	五、三同	同 九圓五十錢也
	四、五同	同 六圓八十錢也
	四、二同	同 五圓五十錢也
	三、七同	同 四圓八十錢也
	三、四同	同 三圓二十錢也
瓜形	經四、六同	同 三圓五十錢也
	四、三同	同 二圓五十錢也
	三、六同	同 二圓也

尚御好みにより値も品も色々に調製致します。御話下されば早速見本持參御伺致します。
平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

外科專門
X光線科
入院隨意（自炊の便あり）
病室完備
平町南町
上田醫院
（電話一二九）

新製品發賣!!!
コーヒー通待望のコーヒー來る……！
シャバ モツカ グアテマラ
本場コーヒー三種配合挽立
1/4封カンス三五錢
1/2封カンス七十錢
味覺滿點
香味本位の本場銘茶を召上りませ……
電三九六番
大勝園

難波醫院
內科 小兒科
醫學博士 難波睦
平町新川端櫻堤
電五〇二
（…入院隨時…）
看護婦募集

石城酒造組合主催
唎酒會
優等入選
白鳥の雪
辰の口本店
平窪村（電話平二八五番）
販賣店
平町二丁目（電五四六番）

內臓外科
整形外科
泌尿器科
外科 產婦人科
醫學士 內木宗八
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

平町田町
高久病院
（電話五三一番）
內科 小兒科 醫學士 高久忠
外科 花柳病科 新潟醫學士 赤羽德
耳鼻咽喉科 藥劑士 佐竹
レントゲン科

小兒科・內科
特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。
平町。ねずみ坂
渡邊醫院
電話一六一番

犬養健代議士の來援 早くも大人氣をそゝる

けふ高橋熊次郎代議士が獅子吼 政友派の言論戰線漸く展開

けふとも愈々僅かに中六日所謂清き一票の行使に無くてならぬ入場券も今八日から配られて各有權者としても何れの候補者に入れるかに就て今こそお互のふよみきを決めねばならなくなつた、今迄兎角あぶらの乘り加減の少かつた選擧氣分は期日の切迫と共に慌しさを加ふる一日數ヶ所の演説會に持つて來て各町村の入場券配付が郡下四萬有權者の選擧意識に拍車した形ちで凉臺に街頭に漸く選擧話しがはづみ出したやうであるけふ政友會では本部特派員高橋熊次郎代議士を迎へ好間、内郷、平(第三校)湯本、錦、山田の六ヶ所に演説會を開き更に一兩日中には犬養健代議士の應援演説がある筈で早くも人氣を晙つてゐる

伊藤仁太郎氏來 三日間に亘り轉戰

政友派赤坂候補の爲代議士伊藤仁太郎氏は明九日來平直ちに勿來植田の演説會に臨み引續き十一日迄各所に應援演説を試みると

米價上向く 穀檢調査最近價格

農作豫想から去月初旬來漸落を辿りつゝあつた地方米相場は今日に入つてから中央相場に載され上向きを呈し始め平穀物檢査支所が調査した昨七日現在の地米市價は三等石當り玄米二十二圓十七錢、白米廿四圓二十一錢で去月下旬より各十六錢乃至十八錢の高値である

地方の屋上施設は可燃質が一割二分 當局頻りに改善を策す

平署管内に於ける昨年中の火災は三月十七日未明平町田町西洋料理店一の井事輪爲吉方撞球場から發火し石川亭を始め酒喜庵まで延燒し、全半燒十戸損害七萬圓に達したのを筆頭に合計二十二回、金額十一萬千百二十八圓に上つたが原因は煙筒の飛火が一番多く殘火、提灯の不始末、漏電、炬燵弄火の順なので同署では各町村消防組員と協力し極力屋上の不燃燒物改葺を奬勵しつゝあるが今月一日現在平町外三町屋上葺役は

町村	不燃質	可燃質
平	三、八四七	二六五
江名	三九八	六〇三
小名濱	三、三七三	一五三
湯本	一、七一六	一七五
合計	九、三三四	一、二五六

で可燃質屋上は全戸數の一割一分八六を占めて居る事が判明した、之の大部分は非住家で杉、藁、木羽の順である

冷凉水の如き夜を灯は流心を下る 來月九日の鎌田流燈會

平町鎌田町青年分團主催の恒例流燈會は來月九日(舊二十日)宵から鎌田橋畔で行はれるが夏井の流心を汇る大小色とり〲の流燈に凉を追ふ人々で例年の如く雜沓を來すだらうが尚左の方法で懸賞燈籠競技會をなし一等より十等迄のものには賞品を呈すと

一意匠の斬新なるもの二川施餓鬼の趣旨に適當なるもの三自家の廣告燈として優良なるもの

平商生獵職 校長を先陣に運動

平商では愈々來學期から矢野校長先陣に立つて來春卒業生四十名の就職運動に入るので擔任教諭は夏休中詳細なる個性調査をなし來學期早々職員會に諮り夫々適業を斡旋する事になつた

吾と生命を絶つた者 一月足らずに十名 郡下近來の自殺流行

憂鬱な世相の斷面。死の魔手に可惜青春を抛つ者が最近滅切りその數を增し去月十一日内郷村白水入山炭鑛筆生若松政一(二二)が新舞子海岸で無殘の爆死をとげたのを皮切りに

△十三日鰐ヶ淵に飛込み自殺。湯本町星野タケ子(一九)△同日虎の子の貸し倒れに勿來町小林で縊死した、勿來町字四澤農秋本留重(五六)△二十四日病弱悲觀で松ヶ岡公園で列車飛込みの元米京藝妓萩生田みよし(一九)△二十三日悲戀の日光心中内郷村御厩菅野幸三(二二)飯野村北白土鹽ツルヨ(二四)△三十日不時の病悲觀で松ケ岡下に列車飛込みの好間村川中子鈴木正道(一九)△八月一日失戀の新舞子飛込自殺未遂、片倉製糸工場女工金子みよし(二三)△五日四百圓を拐帶して熱海で鐵道自殺した新川町谷屋呉服店員小野陽治(二六)△六日失業の結果松ヶ岡で縊死した長橋町芳賀正安(二八)等々僅か二十七日間に十名と云ふ近年にない多くの自殺者を出した

自殺の虞れ 家出の理學士を 東京から捜索願

東京市赤坂區青山高樹町一二純向五男鐵道省土質調査委員會囑託理學士石原呉郎(三〇)氏は去月二十七日午前七時半頃伊豆湯ヶ島持越鑛業所勤務理學士内野敏夫氏を訪問すると家出した儘行方不明となつたが過度の神經衰弱により自殺する虞れありと今八日實父から平署に捜索方を願ひ出た

暑熱に馬は斃る 燒却の衞生舍が多忙

沖日の暑熱に耐えかねて最近馬の斃れる事頻りで一昨六日は二頭、昨七日は好間村鈴木啓次郎氏所有外二頭が斃れこれらは何れも平町鎌田町金成衞生所で燒却したが主に十五、六才の老馬であると

木炭組合の集金員横領 解散の淸算で暴露

濱三郡木炭同業組合集金員神谷村下片寄片寄淸多(五五)は昨年十月中百四十七名から取立てた組合費百五十圓を横領した事目下同組合に於ける解除騷ぎの淸算で發覺目下平署の取調を受けて居る

磐中庭球部 猛練習開始

東北學院主催東北中等學校優勝旗爭奪庭球大會は二十四日仙臺市に開催されるがこれに出場することになつた磐中庭球部では目下平俱樂部根本氏及び磐女卒業生瀬谷せい子嬢をコーチとして練習を開始した

破鏡に醜い泥試合 脅迫と誣告の告訴ごつこ

内郷村町田樋口常藏(三〇)の妻同字宮澤高橋英次妹ハナ(二四)は去月十六日同村箱崎公一(二五)と情を通じたと言ふ理由で四名の證人立會のト離されたが右は暴行脅迫で無理強いされたものであると高橋から平署に告訴した一方樋口は女の不身持を並べ立て反對に誣告の告訴を出したので目下双方を呼出し取調中である

凉快の四倉から ―平第一臨海學校通信(6)―

今日は新舞子に遠足の豫定です特別五時起床支度整へた所に何と皮肉であらうか雨がごしや降り、一同は天を仰いでため息をついてゐる、九時漸く雨も止み喜び勇んで目的地へ行進!歌ふ聲、笑ふ聲!波の音に調和し何とも言ひ知れぬ、綺麗なハーモニーをつくつてゐる。九時三十分目的地へ到着、荒い海と異つて波靜かな水面は又格別で海で泳げない人でも泳げる様になりました。しゞみ汁を目的に一生懸命水底をさぐつたが思ふ様に得られない……又空模様が悪くなつた雨でも降らぬうちに歸らうよ。

×

午後は雨の爲に水泳は中止、机に向つて勉強です。今まで一回もかゝした事のない水泳も今日は殘念ながら中止する外ありません。

×

お父様―お母様―もう臨海學校も六日過ぎました。お父様、お母さまのお側から離れ、何かに不自由をしております。夜中は色々の事が思ひ浮ばれ泣きたくなる事があります、あの懐しい町の灯を頭に描いたり岸湧打つ波の音に城山の鐘の音を思つたりしてはつ!と我にかへり淋しくなる事も御座います。

お父様―お母様―おそばから離れての自分を漸くみつめる事が出來ました。何と言ふ我儘な自分だつたのでせう。お父様、お母様の眞心がひし〱と身に迫つてまいります、私は立派な人となつて忠孝に生きねばなりません。その第一歩として今こゝに共同訓練を受け自治の精神を養ひ、堅忍不抜の精神を鍛ね、身体を強壯にしてゐるのです。それを思ふと始めて自分の心のあまりに女々しい事に苦笑せずには居られません。

人間は強く生きなければならない

今此所にこうして居ることそれ自身が忠孝の本であることを自覺したとき、胸は晴れ希望に滿ち、興奮は次第にさめすや〱と眠りに入ります。

お父様―お母様―どうぞ御心配なく先生の言葉をよく守り、晴れやかに元氣でお目にかゝれる日を樂しみに待つております。

山の頂上を極む事は非常な苦しみを伴ひます。成功する事もやはり幾多の試練困難のある事を自覺せねばなりません

投槍 投書歡迎

白木某を論ず。。。。。

逞言二つで大分大見榮を切られておるが、稚言二つと改題せられてはいかが?君の様な徒輩の嘲笑を買つて申し譯はないが、當事者であると否とを問はず。眞面目に磐新を讀んでくれる程の人は、僕にしろ浦島君にしろ、不明菲才の點はあつても君の書く記事よりは餘程眞面目な熱意を持つてゐる事を感じてくれる筈だと己惚れてゐる次第だ今日あたりもトラホーム亡者見たいな、白は私の世界にありません。式オモクロイ冷眼居士に喰つてかゝつてゐたが、君の喧しく仰有る匿名で俺は白木英尾だとのさばつてゐるが、一體そう言へば磐城下誰知らぬ者もない程御高名でいらつしやるのか、僕は寡聞にして未だに君のシンシヤウミメカタチも知らんが、僕をして言はしむれば小佛太郎と署名してるのに、なせ白木英尾の覆面で物を言ふかだ、これからもある事だ小佛は僕の本名だと思つて貰ひたい。(小佛太郎)

第二

愈々問題は本論に入つて大分熱つぽく成つて來た様だが、貴殿の言はんとする所が果して那邊にあるか一寸判斷しかねる。貴殿は短歌そのものを言はんとするのか、それとも言論戰又は反對組のコキオロシ云々の件に付て言はんとするのが要するに小生の言はんとする所は磐城文壇(創作、詩短歌、俳句等)に於ける一方のオルグであるはずの貴殿等がたゞいたずらに新聞紙上でタンカを切り、變なミエをはる間に之等同好の士を相集めて暴力一致以て磐城文擅發達のため努力せられたら如何かと云ふロウバシンより外ならぬ、それを貴殿はごうはき違へたかメートルを上るあたり一寸微苦笑の態だ、尚は着々準備中とは先日言つた樣に言論戰のことだ、短歌は理論闘爭でないことは言をまたない。貴殿こそ小生の言はんとする所を理解せずいたずらに己の才をさらけ出し以つて横車をおす、之果して男子として堂々の態度であらうか。

最後に貴殿には覆面をいやに氣にして居るが覆面であらうと署名であらうと論には二通りなきはず、あへて貴殿の猛省を望む。(熱血冷眼)

女給を弄んだ上 主人に謝金を迫る 甘くない菓子行商人

平町田町菓子商鈴木豊次郎(四〇)は六日午前五時頃研町カフェー松ヶ岡事高橋武氏方雇人仙臺市生れ生田フキさん(一九)から歸郷の汽車賃二圓五十錢の貸與方を申込まれたのを良い事に十五丁目旅館朝日館に連れ込んで弄んだト抱主高橋に對し逃走女給を發見したから謝金を出せと迫つたので今七日平署に告訴された

舅嫁を訴ふ 故人の退職金が因

双葉郡久の濱町高木一造(五五)は此程亡伜の嫁平町南町高木キヨ(二三)を文書僞造の廉で平檢事局に告訴したがキヨは去る二月鐵道員たりし夫(三七)が病死したのでその退職金を得んと父一造の印鑑を僞造し分家屆をしたものである

競賣受理件數 平區

に於ける一月以降現在迄の競賣爲理件數は二百十件、未濟三十六件取下げ七十件で殘百四件は施行されて居り地方農村の困憊を物語つて居る

歸宅を促されて憤慨 名に不似合な肴屋賢さん 馬鹿な眞似して訴へらる

平町紺屋町魚行商窃盜賭博前科七犯鈴木賢藏(四〇)は去月二十三日午前二時頃大工町飲食店惠比須屋事鈴木キン方で泥醉し歸宅を促されたのに憤慨しキンの髮を取つて戸外に引き摺り出し頭部、顔面に全治三週間の傷を負はせて今八日平署に告訴された

公民生募集 平商内

平實業公民學校(夜學)は去る四月前期七、後期十五名、計二十二名を狩り集め夜短かな關係から月二回乃至四回の授業して居たが愈々來る十月の讀書季を期して本格的授業をなすので來學期より大募集に着手する事になつたが科目は左の如く授業料は月五十錢であると

修身、公民、國語、數學、珠算、商事要項、簿記、地理、歷史、英語。

馬の爲に自動車轉覆 鈴木鹿島村長負傷す

昨七日午後二時四十分頃平町野崎自動車部の乘合を四家運轉手が繰縱鹿島地先を小名濱に向つて進行中折柄前方通行中の荷車が爆音に驚き暴れ出したゝめ之を避くべく急カーブを切つた爲車体は轉覆、乘客中の鹿島鈴木村長は足部に擦過傷及胸部に全治三週間の打撲過傷を負ひ小名濱町中村醫院で應急手當中である

。。。。平土木委員會。。。。 今八日午前十時から開き田町元平陽女學校跡百六十三坪の町地拂下げに就て協議した

。。借取。。 東京市豊島區巣鴨町古物商立澤富太郎(五三)は昨年十月一日平町紺屋町水野晃氏方に至り漆器十三圓分を借り受け返さぬので今八日平署に告訴された

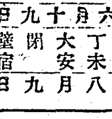
。。盜伐。。 江名町榎戸土工福地正壽(四二)同白静元(三八)の兩名は去月中同町小松孝一所有山林から松木百餘圓分を盜伐し平署に捕はれた

。。起訴。。 飯野村大字上荒川加藤泉一(三七)が去る六年八月十五日同村役場小使猪狩興之(六二)に情を打ち明け役場の公印を盜用して印鑑證明書を作成僞造し實父專次郎所有の田畑六反歩を抵當物件として登記し平町字材木町高田衛から八百五十圓を借用した事件は過般來平檢事局三堀檢事が取調べ中であるが取調べ一段落を告げ近く起訴豫審に附される

。。潜り。。 湯本町向田佐藤政五郎は無免許で昨年十二月十三日磐崎村小野田炭鑛山田庄平三女マス(一六)さんを埼玉縣浦和町篠原鈴木豊吉方に周旋し平署に檢擧された

。。横領。。 平町材木町理髪業新妻信雄(三五)は六日長橋町松本ミツ子さん(三〇)の錦紗帶を二十五圓で賣つてやると稱して横領したので今七日平署へ告訴された

。。怠慢。。 平町長橋町綠川三二(四五)は去月七日四倉町で氏名不詳の者から銅線を買ひ長橋町佐川朝壽に賣却。好間村上好間古物商石森卯之吉(五五)は同村大熊某から銅線を買つて帳簿に記載せず何れも取締違反として平署に檢擧された



舊六月十九日　新八月九日　水曜　丁未　大安　閉　壁宿

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神　誠　館

▲一白の人 當で事と何とやら外れ易く落膽する凶惡日▲二黑の人 漸次に進展はすれども念功を欲すれば失敗▲三碧の人 お先眞暗の日柄にて起業開店等見合すべし▲四綠の人 爭論訴しような起し易き日相談事は調ひがたし▲五黄の人 程を忘れず見榮張らず着實なれば過失なし▲六白の人 勇氣を振ひ起して熱心なるべし發辯開印凶▲七赤の人 大幸運の日諸事ちうちよなく進むべし名利擧る▲八白の人 彼是と二た道かけての計畫は一も成り難し▲九紫の人 發展力の加はる日期待以上の成功を收めん

廣告

金融 恩給年金 低利立替
軍人官吏其ノ他一般(教員巡查)モ速カニ御用立致シマス。御希望の方は表記へ御來談を乞ふ。
平町六丁目百〇壹番 鈴木龜雄

絹織物ハ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため一割引にて大々的勉强御註文に應ず
親切確實ハ正木織物店ノ生命也
御註文ノ時ハ(呼出電話六七四番ヘ)店員伺ます

公園下 白生地 賃織販賣 平町字新町貳十貳番 正木織物店

醫 開業
診療科目 ○内臟外科 ○整形外科 ○腦外科 ○皮膚科 ○婦人外科 ○性病科 ○一般外科
院 入院室 手術室 完備 業
醫學博士 諸橋鐵彌
平町新川町廿七(電話四六四)
諸橋外科醫院

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
◎秤ノ取替・修理・緒・糸・致シマス
開内藥局 電話四〇番

吉田眼科病院 平町紺屋町